

アルプス展望台春霞がないといいな 守屋山

実施日 2014年4月6日(日)
 天候 曇り時々晴と雪
 リーダー 涌井 良明
 参加者 涌井良明、石附智江、石原勝正、
 宇野輝代 計4名
 費用 2,000円(高尾起算負担額/人)
 タイム 高尾駅南口(6:40)杖突峠P(8:45~9:00)守屋山登山口(9:50)東峰(10:50~10:55)西峰(11:20~11:50)立石口分岐(12:12)R152(13:05)杖突峠P(13:28)

天気予報で日曜に変更したが、結局真冬の寒さと雪山を楽しむ?ことになった。高尾発のIカーは順調に、昨夜の雪で白くなった杖突峠の登山口Pに到着。脇には大規模な太陽光発電所が出来ていた。



発電所の囲いに沿って雪に覆われた道を進む。左に林道も並行している。読み取れなくなった案内板が打付けてあったり、以前から登山道

だったことが窺える。そう言えば前回来たのは40年以上前だったかも。

座禅草自生地を抜けてアカエ沢源頭の登山口へ。立派な標柱、水呑場山荘、休憩所などが造られている。



新雪の下に以前の残雪も見ることができるようになったので、念の為にアイゼンを着けて登ることにする。傾斜が急な所では結構な踏抜きの跡も見られるが今日は真冬並のため固い踏跡になっている。



時々雲が切れると、青空と雪の森、木々に咲いた雪の花がキラキラ舞う幻想的な世界を醸し出してくれる。急登が終わると立

石新道が分岐する、しばらくで東峰の標識が見えて来て小さな岩場の東峰に着く。

展望板があるが山々はグレーの雪雲に厚く隠されてかろうじて八ヶ岳の裾の一部と入笠山方面が見えているが、僅かな展望も長続きしそうもない。一息後、前方に見える西峰(本峰)に向かう、直ぐに守屋山神社の奥宮が鎮座している鉄格子ハウスがある。



緩く下って登って中岳を越し、避難小屋のラビットハウスを過ぎると西峰に着く。1650m一等三角点である。視界も先



程より悪く寒い山頂だが、雪を払った木材に腰を下してランチにした。雪が舞い、風が流れウウ〜さぶ〜い! それでもい

つもの様に差入れの分配や暖かい飲物などでしっかりとランチタイム。

写真を撮って下山だが、今回は東峰迄戻り新道の立石道を下ることにする。舞っていた雪が本降りになりアラレの様に降り注ぐようになってきた。立石口まで戻り南斜面の新道を下る。

山肌にジグザクに切られた道は歩き易が、アイゼンにまとわりつく雪団子が煩わしく傾斜が緩んだ場所で外す。

下るにつれ大岩が目立つようになり、名称も付いているが、らしいまんまで特にひねりや面白味はない。

ルートの由来となった、里からも見える立石を通過して、雪も消えた箇所でもでくると、ほどなくして別荘地に出て山道は終わ



る。国道にでて20分程で登山口Pに戻る。期待したパノラマには恵まれなかったが、4月の新雪を踏んでそれなりに面白かった。最近では少人数だったが、山を楽しむには丁度良いのかも改めて感じた。クルマの提供や参加してくれたメンバーにお礼申し上げます。

※あれだけカラマツ林、芽吹き・落葉の頃は是非再訪してみたいものである。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・石原 勝正)